

## 第22回鳴瀬川水系河川整備学識者懇談会

日時：令和7年7月24日（木）15：00～16：30

場所：TKPガーデンシティPREMIUM仙台西口 ホール6B

### 1. 鳴瀬川総合開発事業の事業評価について

<事務局から、資料-1「ダム事業 再評価 鳴瀬川総合開発事業 説明資料」を説明>

#### 【審議結果】

鳴瀬川総合開発事業について、事業の継続は妥当と判断する

- 委員**：浸水規模の図について、前回の再評価時にも同じ質問が出ていたが、こういう図を見るとダムができて浸水域が変わらないように見えてしまう。ただし、よく見ると浸水差であるため、実際にはほぼ解消されるということでしょうか。  
また、それらはダムと河道の条件を加味したうえでの効果か。
- 事務局**：想定死者数でみた場合、基本方針規模（1/100）ではダム整備前後でゼロにはならないが軽減される。整備計画規模ではゼロとなる。
- 委員**：浸水規模の図について、浸水深で示すほうが分かりやすいため、次回以降はそのように準備いただきたい。
- 委員**：物価高騰の影響で今後の見通し（人手の面など）が厳しくなることが予想されるが、感度分析はマニュアル通りで十分なのか。すべてが、B/Cが下振れする方に変動する最悪の想定は検討しているか。
- 事務局**：すべてが、B/Cが下振れする変動は想定していない。物価上昇の影響は少なからずあると考えているが、コスト縮減やダム本体の各種調査、設計に係る検討も同時に進め、事業監理に努めていく。

●委員：利水ダムである二ツ石ダムは流域治水の中で治水の役割を担うのか。

○事務局：令和2年度の治水協定により事前放流することになっている。

●委員：事前放流をする場合、国交省から具体的な要請があるのか。

○事務局：台風・大雨等の降雨予測に基づき、3日前などに各機関に要請することになっている。

●委員：現時点の事業の進捗状況（進捗率）を事業費ベースで示せるか。

○事務局：令和6年度時点の事業費ベースで21.9%の進捗となっている。

●委員：今年は渇水状況で、隣の鳴子ダムでもかなり貯水位が下がっているという報道が出ているが、鳴瀬川ダムに流入する筒砂子川では流量観測されているか。観測されている場合は、今年の状態について聞きたい。

○事務局：筒砂子川上流で流量観測している。また、漆沢ダムの水文データも活用して流量を確認していく。今年の状態は、手元にデータがなくこの場では答えられない。

○事務局：鳴瀬川では、鳴瀬川中流堰の下流側を基準地点として正常流量2m/sに設定している。天気予報を見てもしばらく雨が降らない状況にあるため、引き続き河川の状態を見ながら関係者と連携して渇水対応に努めていく。

●委員：最近では、温暖化の影響によって日本海側と太平洋側で積雪量にかなり差があるように感じている。また、積雪量が減ってきており、これにより融雪流出の時期が早まり、流出量も減ってきているため、利水に大きく

影響すると考えている。

今後、気候変動によって洪水も2割増しくらいに増えるだろうと予測されているが、渇水についても大きな影響が出てくると思う。特に、鳴瀬川ダムは計画利水容量に対して集水面積はあまり大きくないので、今後の気候変動による渇水への影響の観察を注意深く継続して貰いたい。

○事務局：いただいた意見を参考にしながら進めていきたい。

なお、既設の漆沢ダム（集水面積：58.9km<sup>2</sup>、利水容量：650万m<sup>3</sup>）の実績を踏まえると、鳴瀬川ダムの諸元も概ね妥当と考えている。

●委員：仮排水トンネル工事、付け替え道路の工事等が着実に進み、感謝している。この事業が完成すると、鳴瀬川の水位低下と多田川等の支川の水位低下や内水被害の軽減にも寄与する。

特に、多田川流域は3度の記録的大雨（H27、R1、R4）の被害を受けて、地域住民も不安に思っている地域である。多田川は3月に特定都市河川に指定され、先週流域治水協議会が発足しており、今後、関係機関一丸となって計画を作っていく。多田川流域の浸水被害の低減を図るためにも鳴瀬川総合開発事業の進捗に期待している。

また、利水面の様々な意見があったが、利水安全度が現況の1/2程度という中で、渇水時は番水や用水の反復利用で営農者の負担となっているため、この事業の完成によって安定的な水の供給に繋がることも期待している。地域の産業経済の基盤となるような水源の確保、災害に強い地域づくりを続けるためにも一日も早い完成を願っている。

●委員：従前の方法に基づいて計算した費用便益比1.3に異議はないが、水害が激甚化している中、従来通りに河川整備基本方針をまず先に決めて、気候変動を考えない枠組みで事業を続けていくことには疑問がある。特に、気候変動はランダムウォークで表せることが学問的にも明らかであるため、気候変動に対応した河川行政に変更いただきたい。

また、流域治水として、グリーンインフラの機能等、従前のマニュアル

にないものが入ってきているため、費用便益分析の方法についてもリバイスしてほしい。

○事務局：現在、河川の中長期的な計画を定める河川整備基本方針について、気候変動を踏まえた計画への見直しが全国で行われている。鳴瀬川水系においても、検討の作業を進めているところ。基本方針の見直し後、整備計画についても見直しを進めていくような状況。

先週行われた本省の河川事業の評価に関する研究会で、次の議題に「流域治水に係る諸施設の検討にあたっての経済分析活用の方向性」が挙げられているため、ご指摘の点は今後検討が進んでいくと思われる。

●委員：当初、鳴瀬川上流にダムができることで、本川の流量が減ることが心配であった。また、鳴瀬川はアユで全国的に有名な川であるため、もったいなく思っていた。その後、漆沢ダムの運用変更により、かなり本川へ水を流してくれると伺い、安心した。市民の方や流域外の方を安心させるためにも広く周知すべき。

○事務局：鳴瀬川総合開発事業の完成後は、漆沢ダムは常時入ってきた水を放流する状態となり、洪水時のみ水を貯める運用となる。今後も様々な場面で広報に努めたい。

●委員：2003年あたりに北上下流で森川海の連携の話があった。当時は、鳴瀬川の河口と長面浦のみ1年牡蠣が採れたが、これは川からの栄養の問題であり、川は流域の生物だけでなく、海も育てているという報告書もある。また、沿岸域生産の漁獲高は非常に大きく、これも川の影響である。このように、川は海を育てているということを河川担当者は意識をしていただきたい。また、広く全体をみて、国交省の管轄に限らず他の省庁とも連携する考えを東北から示していただきたい。

○事務局：どのような指標で効果が図れるかは分からないが、上部機関に報告した

うえで、多方面から効果を探る方法等、情報を共有したい。

●委員：土砂流出もダムの影響があると考えている。今後、河口・海岸も含めて、地形的にどういった影響があるかもモニタリングしていただきたい。

○事務局：鳴瀬川総合開発事業では、環境影響評価法に基づき環境影響評価（環境アセスメント）を行っている。土砂流出等のモニタリングもしていくこととなっている。